

EUSI メールマガジン Vol. 034

「EU 発『チューニング』の世界的広がり」と日本への示唆・インパクト」(松塚ゆかり)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 023】

「EU 発『チューニング』の世界的広がり」と日本への示唆・インパクト」 松塚ゆかり (一橋大学大学教育研究開発センター教授)

1993年の欧州連合(EU)設立以後、欧州委員会(EC)は人的資本政策の要として教育及び訓練の欧州統一指針を次々と打ち出した。中でも大学を中心に据え、欧州高等教育圏の構築を目指して1999年に開始したボローニャプロセスは、国によって進行の度合いは異なるものの着々と進展している。欧州高等教育圏構想の基本方針は、欧州域内の大学が学位の構造及び修学課程の年数や内容を始めとする教育制度や評価基準について共通の枠組みを設定し、相互交流を促進して欧州全体の教育・研究力を強化していこうというものである。当初は域内の統合が目的であったが、その後の10数年の間にボローニャプロセスの諸施策は欧州を越えて世界的に拡大している。

中でも急速な拡大を見せているのは、「チューニング(Tuning)」である。大学教育の科目、コース、プログラムなどの到達目標、学習成果、養成される能力、教育実践に要する資源を明確にし、教員が中心となって大学間で確認し合い共通理解を形成しようとする取組である。楽器をチューニング(調律)するように互いの教育の内容や成果を理解し合う準備を経て、実際の「演奏」、つまり留学や研究交流へとつなげようとする。2000年にオランダのフローニンゲン大学とスペインのデュウスト大学が共同で開始した後、2004年に南米で Tuning Latin America、2009年には北米に Tuning USA、2010年に Tuning Russia、2011年に Tuning Australia と Tuning Africa、2012年には Tuning Canada と Tuning AHELO が発足した。

これらの参加地域に対して欧州委員会は経済的援助から技術支援まで何等かの関与をしている。一方で、チューニングは(1)多様な文化や慣習を尊重すること、(2)独自の適用を重視すること、(3)大学と教員の自律性を尊重すること、(4)各国の教育、訓練、雇用制度への順応性を高めることを重視としており、実践の目的や活用の在り方は各地域(国)に委ねられている。チューニングが急速かつ世界的に拡大しているのは、地域のニーズに併せて柔軟な適用が可能であること、また、運用の際に国単位の制約がなく、人の国家間移動とともにその実践と成果が自由に共有され得るからなのであろう。その点、むしろ国別に管理される質保証制度よりも波及力があるのかも知れない。むしろその背後には、大学教育の国際的質保証の枠組みを待たずに学生や研究者の交流が急増する中、大学教育に世界的な「並び」を持たせ得る仕組みが求められているとも言える。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol23.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. 一橋大学戦略推進事業・EUSI 共催 第2回チューニング国際シンポジウム

「チューニングによるグローバル産学官連携」

"Tuning Educational Structure in Europe, Asia and the World"

日時: 2013年10月17日(木) 14:00-

場所: 如水会館 3階「松風の間」

趣旨とキーノート:

落合一泰 (一橋大学理事・副学長(教育・学生担当))

講演:

"Tuning: A Strategy for Educational Change, Student Success, and International Cooperation"

Prof. Robert Wargenner

(Director for Graduate & Undergraduate Studies, University of Groningen)

「分野別参照基準と協働的知性」

北原和夫 (東京理科大学教授、日本学術会議大学教育の分野別質保証委員)

「エンployアビリティー: 社会と産業が求める人材像」(仮)

伊藤雄二郎 (三井住友銀行取締役兼専務執行役員)

言語: 日本語・英語 (同時通訳)

申込: チューニングシンポジウム実行委員会

<http://www.symposium2.tuningjapan.org/>

http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20131017_tuning.html

2. 駐日欧州連合代表部主催「永山事件～日本の死刑制度を考える」移動展示

日時: 2013年10月22日(火)-10月31日(木) 10:00-17:00

場所: 一橋大学附属図書館 1階会議室

協力: EUSI・一橋大学附属図書館 (EU情報センター)

予約: 不要

3. ヨーロッパ・アジア太平洋の社会科学ネットワーク国際シンポジウム

一橋大学主催・EUSI 共催「アジア太平洋地域とヨーロッパにおける経済再生」

日時: 2013年10月29日(火) 10:30-17:30

場所: 一橋大学千代田キャンパス 一橋講堂

来賓挨拶: ハンス・D・シュヴァイスグート (駐日欧州連合代表部大使)

基調講演: 三木谷浩史 (楽天株式会社代表取締役会長兼社長)

「日本の国際競争力を高めるには」

プレゼンテーション:

深尾京司 (一橋大学経済研究所長)

ジャン＝マリ・ブイス (パリ政治学院)
デビット・メイズ (オークランド大学)
モートン・オーゴ (コペンハーゲンビジネススクール)

パネル・ディスカッション: 参加大学代表者
モデレーター: 長岡貞夫 (一橋大学イノベーション研究センター教授)

言語: 日本語・英語 (同時通訳)
申込: EUSI 事務局 (10月24日(木)まで)
<http://www.hit-u.ac.jp/function/outside/news/2013/1007.html>
http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20131009-socialsciencenetwork-symposium.html

4. EUSI 政治プロジェクト研究会

「EU は盤石か? --欧州統合の領域及び加盟の深化・拡大の再考--」(仮)
"Is The EU Stable?: Deepening, Widening of Scope and Membership Revisited"

日時: 2013年11月12日(火) 16:30-18:30
場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南館 B4 2B42 号室
言語: 英語 (通訳なし)

講演: ジャック・ペルクマンス教授 (Prof. Jacques Pelkmans)
(College of Europe 客員教授・欧州政策研究センター(CEPS)上級研究フェロー)

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

林秀毅 (EUSI 主任研究員・日本経済研究センター特任研究員)
「ドイツ総選挙後の展開とイタリアリスク -- ECB は"四重苦"に」
『欧州経済・金融レポート』(日本経済研究センター)(2013年10月9日)
<http://www.jcer.or.jp/column/hayashi2/index544.html>

【EU に関するニュース】

- 2013年9月16日 IMF 理事会、8470万ユーロ分の対キプロス支援を承認
- 2013年9月17日 アシントン EU 上級代表、シリア化学兵器使用に関する国連報告書を受け、非難と破棄を声明
- 2013年9月17日 欧州委員会、合法的薬物(向精神薬)対策強化提案。合法的な工商業利用を除き市場より撤去
- 2013年9月17日 Eurostat、7月対外貿易収支はユーロ圏 17カ国で182億ユーロ、EU28カ国で104億ユーロ黒字
- 2013年9月17日 ユーロブ・独世論調査発表。ドイツ人の半数が EU に懐疑的、英離脱には慰留すべきと回答
- 2013年9月17日 欧州自動車工業会(ACEA)、EU 市場の新車登録台数は7月は前年同月比4.9%増、8月は同4.9%減
- 2013年9月17日 中国商務部、本年1-8月のEU・中国貿易額は前年同期比1.1%減、EU 対中直接投資は同24%増
- 2013年9月18日 欧州委員会、金融指標の信頼性回復のための新提案。不正操作発見や監督責任明確化など柱
- 2013年9月18日 欧州委員会、クロアチアに対し「39条手続」開始。同国の欧州共通逮捕状の執行是正のため
- 2013年9月18日 欧州委員会・ECB・IMF トロイカ、キプロス支援プログラム第一次評価報告書を発表
- 2013年9月19日 アスムセン ECB 専務理事、ギリシャ改革プログラム進捗や経済指標に対して好意的評価
- 2013年9月19日 財務省、8月貿易統計速報(通関ベース)発表。対 EU 貿易は8カ月連続の貿易赤字
- 2013年9月20日 EU・シンガポール FTA 仮調印。発効後5年で関税ほぼ全面撤廃。EU と ASEAN 加盟国間

で初の FTA

- 2013年9月20日 伊政府、2013年・14年成長率見直し下方修正発表、今年度財政赤字は対 GDP 比 3% 目標堅持
- 2013年9月22日 ドイツ連邦議会総選挙。メルケル首相キリスト教民主・社会同盟(CDU/CSU)勝利、連立再編へ
- 2013年9月23日 ファン＝ロンパイ議長とバローゾ委員長、ケニアのテロ攻撃への非難と同国支援の共同声明
- 2013年9月23日 アシュトン EU 上級代表、ザリーフ・イラン新外相と初会談、E3+3 核協議参加などで合意
- 2013年9月23日 アシュトン EU 上級代表、ペシヤワルでのキリスト教会へのテロリスト攻撃に対して非難声明
- 2013年9月24日 ドッグヒュット通商担当欧州委員、茂木経産相と日・EU EPA 交渉加速・早期妥結が重要と一致
- 2013年9月24日 レグリング欧州安定メカニズム(ESM)最高責任者、ストレステストで資本不足への対策必要
- 2013年9月24日 欧州委員会、共通農業政策(CAP)改革に関する政治合意が成立
- 2013年9月24日 欧州委員会、医療機器の安全性改善のための2つの措置を採択。1万種もの製品を対象
- 2013年9月24日 レッタ伊首相、欧州の市場・政治家・市民は英の EU 離脱リスクを過小評価していると憂慮
- 2013年9月25日 欧州委員会、2013年度 EU 加盟国の競争力と EU 産業政策の実施報告書を発表
- 2013年9月25日 仏政府 2014年度予算案発表。150億ユーロもの歳出削減、財政赤字は対 GDP 比 3.6%
- 2013年9月25日 英政府、EU の銀行員ボーナス制限規則に反対、欧州司法裁判所(ECJ)に提訴
- 2013年9月26日 イラン核開発をめぐる E3+3 協議、国連本部で開催。10月15・16日にジュネーブで協議継続
- 2013年9月26日 駐日 EU 代表部・日欧産業協力センター、日・EU 関係史刊行記念のパネルディスカッション
- 2013年9月26日 欧州研究会議(ERC)、EU の第7次枠組計画(FP7)の最後となる第6次先進研究補助金を公募
- 2013年9月27日 アシュトン EU 上級代表、シリア化学兵器に関する国連安保理決議に歓迎と支援の声明
- 2013年9月30日 EU・インドネシア、違法伐採木材の取引抑制のための自主的・二国間協定(VPA)調印

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、教育学を専門とする松塚ゆかり教授にお願いしました。松塚教授は、EUSI イベントのご案内に掲載された国際シンポジウム「アジア太平洋地域とヨーロッパにおける経済再生」を企画する中心的な役割を担っており、今回超多忙な中で執筆して頂きました。

欧州統合の進展が、経済・政治などの分野だけでなく、教育面でも進んでおり、EU 内で国境を越え学習・研究の機会が大きく広がっていること、この点は欧州で学ぼうとする日本の学生にとっても同様です。

10月29日の国際シンポジウムには、皆様ぜひご参加ください。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

10月に入り、今年度もはやくも下期に、大学では秋学期が始まりました。

昔から秋は芸術や勉強の秋と言われ、学会シーズンでもあり、様々な知的好奇心に溢れるイベントが開催されます。EUSI でも大きな国際シンポジウムが2つ、そして講演会を1つ開催する予定です。

また学会も、日本 EU 学会の年次大会が、11月9-10日立命館大学朱雀キャンパスで開催されます。今年は「ユーロ危機と EU の将来」と題して様々な研究報告が行われますが、その中で発表されるジャック・ペルクマンズ先生にも、EUSI にお越し頂き、慶應にてご講演をいただく予定です。

ちょうど今ノーベル賞発表のシーズンですが、昨年 EU が平和賞を受賞してから1年経ったと思うと早いものです。昨年は山中伸弥・京都大学教授が医学生理学賞を受賞したのと、このニュースが大きく印象に残っています。本年度もまた、ヒッグス粒子を提唱したピーター・ヒッグス博士(英)にノーベル賞が贈られることになりましたが、ヒッグス粒子を発見したのは欧州の原子核研究機構である CERN であり、そこには日本の研究者らも大きく関わってきました。

日欧の最先端分野の学術研究協力が極めて重要な役割と貢献をしていることを改めて感じます。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン 編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
